

特集

# どうなる喜茂別町

# 「女子野球タウン構想」の同床異夢

「任用」で町と争う

喜茂別町を訴えたのは元プロ野球阪急（現オリックス）の投手で、札幌新陽高校の女子硬式野球部監督だった石井宏さん（59）＝帯広市出身、札幌市在住＝。喜茂別町との間で、期限付きの「会計年度任用職員」として2022年度の雇用の約束をしていたにもかかわらず



▲新陽高校女子野球部監督時代の石井氏（2017年撮影）と、現在の石井氏（円内）



▲喜茂別町役場と内村俊二町長

女子の硬式野球で町おこしを——と喜茂別町で始めた「女子野球タウン構想」が思わぬ犠牲を払い、頓挫しかかっている。指導を依頼した元プロ野球選手との裁判が原因とみられる町職員の「自死」というショッキングな事案も起き、町はいったん廃止した副町長を復活させるなど対応に追われている。羊蹄山を望む人口2000人を切ったまちに何があったのか。

（ジャーナリスト・黒田 伸）

め判決は確定した。この裁判で石井さん側は、

「町が21年度に続いて22年4月から1年間、採用するという条件を示し、（石井さん側は）昨年3月8日に承諾の返事をしたため、この時点で雇用の約束が成立していた」とし、さらに、

「地方自治法では職員の給与など自治体の『義務的経費』が議会が削減された場合には首長に再提案を義務付け、それが再度削除されても予算を執行できる、とする条項がある」として、町側に石井さんの1年分の給料約650万円を支出する義務があったと主張していた。しかし、中野裁判長

らず、町議会です算案が削除されたのを理由に雇用されなかったのは不当だとして、同町に給与損失分の648万円の損害賠償を求めると、昨年11月22日の第2回口頭弁論で結審した。

判決は2月9日に札幌地裁であり、中野琢郎裁判長は石井さんの請求を棄却。石井さん側が控訴しなかった

は判決理由で、22年3月14日の町議会で予算案が削除された時点で石井さんは町に任用されていなかったとし、

「公務員の身分関係は任用によって生じるため、町が石井さんの給料を支出すべき義務は確定していなかった」と

との判断を示し、石井さん側の訴えを退けたわけだ。

## 新陽高女子の監督経験も

ところで、石井さんは道日大高校では速球派の投手として頭角を

現し、1981年の春の選抜でエースとして出場。その年のドラフト会議でロッテから4位指名されたが将来を考えて教員免許を取るために日大に進んだ。

東都大学リーグでは「東都の星」と呼ばれて活躍、日米大学野球

## 女子野球タウン認定事業

全日本女子野球連盟（一般社団法人、本部・東京都渋谷区、代表・山田博子）が、2020年就任）が、女子野球普及と地域活性化のため2021年9月から募集を始めた取り組み。

21年11月には佐賀県嬉野市、埼玉県・加須市、愛媛県・松山市の3都市が第1号として認定され、22年9月現在、10都道府県12都市が認定されている。ちなみに、第2号認定は広島県廿日市市、広島県三次市、第3号認定は北海道喜茂別町、滋賀県近江市、長野県松本市、第4号認定は兵庫県淡路市、和歌山県田辺市、第5号認定は東京都

府中市、兵庫県丹波市。

喜茂別町は北海道唯一の女子硬式野球クラブ「ホーネット・レディース」のホームタウンで、「NPO法人北海道ベースボールクラブ」と地域連携協定を締結、地方創生を推進することを目的としている。

## 全日本女子野球連盟

日本の女子硬式野球の統括団体。中学、高校、大学、クラブのカテゴリーの団体が加盟し、野球女子日本代表の編成や派遣、全日本女子硬式野球選手権大会を主催する。2014年にNPO法人日本女子野球協会から改組、一般社団法人として設立。



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)